金子晴勇［著］（ヨーロッパ思想史）［全 7 巻別巻 2］

キリスト教思想史の諸時代 VI

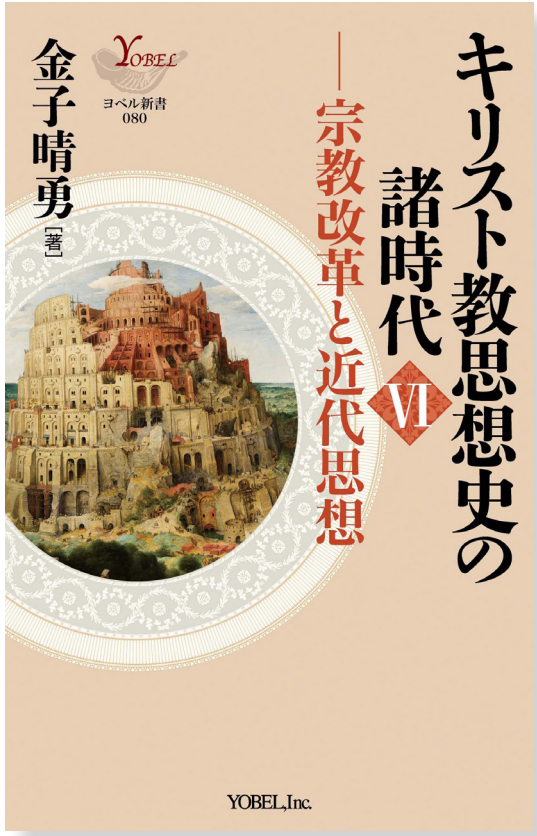
宗教改革と近代思想

［第 6 回配本］

35th Anniversary Yobel, Inc. since 1987

ヨベル新書　080

2022 年 08 月 26 日刊行予定



新書判・272 頁・1,320 円（税込）
本体 1,200 円＋税 ISBN978-4-909871-37-4 C0216

霊性（信仰）から理性（合理主義）への移行により世界の〈世俗化〉が押し進められた西洋近代。それは新しい文化創造か、それとも文化破壊への道のりであったのか。

キリスト教信仰に代わって啓蒙思想の合理主義が登場してきて、ヨーロッパ的霊性（信仰）を追放し、自らが指導権を掌握したといえよう。だが、霊性との役割を交代することによって、理性の自律化が起こったとしても、その深みを失った結果、無神論とニヒリズムという病魔に冒されることになった。（本書より）

《主な目次》

はじめに
1　近代ヨーロッパ思想史の特質
［談話室］変革期を読み解く――伝統社会から近代社会へ
2　宗教改革者たちの世界
［談話室］オーバーマンの『二つの宗教改革』から学ぶ
3　宗教改革の意義
［談話室］ルター像の変遷
4　宗教改革と近代思想
［談話室］16 世紀スペインの霊性思想
5　近代的自我の問題――デカルトとパスカル
［談話室］パスカルの心的直感
6　啓蒙主義の人間観
［談話室］理性による自律は可能か
7　敬虔主義の人間観
［談話室］ドイツ敬虔主義の文献収集
8　ライプニッツの人間観と神義論
［談話室］予定調和説の魅力
9　カントの批判哲学の意義
［談話室］ハーマンのカント解釈
10　ヘーゲル哲学とキリスト教
［談話室］ヘーゲルは文化総合を実現したか
11　シュライアマッハーと「心情の宗教」
［談話室］シュライアマッハーの青春
付録　スペシャル・インターヴィュー
あとがき
書評再録（評者：大島征二氏）

全巻構成（赤文字は既刊　各巻　新書判・平均 264 頁・1,320 円税込）

- Ⅰ　ヨーロッパ精神の源流　［好評既刊　再版出来］
- Ⅱ　アウグスティヌスの思想世界　［好評既刊］
- Ⅲ　ヨーロッパ中世の思想家たち　［好評既刊］
- Ⅳ　エラスムスと教養世界　［好評既刊］
- Ⅴ　ルターの思索　［好評既刊］
- Ⅵ　宗教改革と近代思想　［第 6 回配本］
- Ⅶ　現代思想との対決　［第 7 回配本］
- 別巻 1　アウグスティヌスの霊性思想　［第 8 回配本］
- 別巻 2　アウグスティヌス『三位一体論』の研究　［第 9 回配本］

著者紹介　金子晴勇（かねこ・はるお）

1932 年静岡生まれ。1962 年京都大学大学院博士課程中退。67 年立教大学助教授、75 年『ルターの人間学』で京大文学博士、76 年同書で日本学士院賞受賞。82 年岡山大学教授、1990 年静岡大学教授、1995 年聖学院大学客員教授。2010 年退官。　主な著書：『ルターの人間学』（1975）『アウグスティヌスの人間学』（1982）、『ヨーロッパ人間学の歴史』（2008）、『エラスムスの人間学』（2011）、『アウグスティヌスの知恵』（2012）、『知恵の探求とは何か』（2013）、『キリスト教人間学』（2020）、『**私たちの信仰**』（2020）、『人文学の学び方』（2020）、『ヨーロッパ思想史』（2021）、『**東西の霊性思想**』（2021²）、ほか多数　主な訳書：アウグスティヌス著作集 第 9 巻（1979）、ルター『生と死の講話』（2007）、ルター『神学討論集』（2010）、エラスムス『格言選集』（2015）、C. N. コックレン『キリスト教と古典文化』（2018）、エラスムス『対話集』（2019）ほか多数　**太文字**は小社刊行

ヨベル　YOBEL Inc.　〒 113-0033　東京都文京区本郷 4 - 1 - 1　T 03-3818-4851　F 03-3818-4858　http://www.yobel.co.jp